

## [課程－2]

### 審査の結果の要旨

氏名 船越 千佳

本研究は、病院の組織再編時にスタッフ看護職の職務心理状態に有効な意思決定の参加に着目し、看護管理者がスタッフ看護職の意思決定参加を効果的に進めるために、意思決定の管理レベルと参加方法を区分して捉えた意思決定の参加程度と職務心理状態への影響及びスタッフ看護職の経験年数によるその影響の違いを検証した。検証のために、まずフォーカス・グループインタビュー及び個別インタビューを用いた質的記述的研究とインターネット調査による横断研究で、再編時にスタッフ看護職が参加した意思決定について、管理レベル別・参加方法別に参加程度をスタッフ看護職に尋ねる評価ツールを開発した。次に、インターネット調査による横断研究でスタッフ看護職が認識している管理レベル別・参加方法別の参加程度と職務心理状態との関連、さらにスタッフ看護職経験年数による両者の関連の違いを検証した。上記の検討により、下記の結果を得ている。

1. 再編時のスタッフ看護職の意思決定への参加程度を、3つの管理レベルの各3つの参加方法に分けて捉えることができる評価ツールを開発した。
2. スタッフ看護職が仕事の進め方について意見を述べると職務心理状態を良好にする可能性があるが、院内運営に関する決定の場に参加することは負担になる可能性が示された。
3. スタッフ看護職の経験年数を考慮した意思決定の内容や方法を選択することがスタッフ看護職の職務心理状態を良好に保つことにつながる可能性が示された。

以上、本論文で開発された組織再編時のスタッフ看護職の意思決定への参加程度を評価ツールを用いることで更なる研究的・実践的な活用が可能となる。さらに組織再編時の看護管理者がスタッフ看護職の経験年数に応じて管理レベルや参加方法を考慮しながら、スタッフ看護職に意思決定の参加を提供することが可能となり、組織再編後のスタッフ看護職の職務心理状態の悪化を回避することが可能となり、組織再編時の看護管理において重要な貢献をなすと考えられる。

よって本論文は博士（保健学）の学位請求論文として合格と認められる。